

第29回 自然と暮らす“旧暦”

松村賢治

(一般社団法人 南太平洋協会 理事長)

平成27年3月15日



自然と暮らす“旧暦”

早川 皆さま、こんにちは。今日は第29回名田庄多聞の会です。ようこそお集まりくださいました。本日のテーマはそこに掲げてありますように、「自然と暮らす“旧暦”」ということで松村先生に来ていただきました。今日は入り口にもありましたが、すばらしい資料をいただけることになりました。それを見ながら聞いていただきたいと思えます。それは松村先生、よろしく願っています。

松村 松村と申します。よろしく願っています。私、ここ名田庄に来させていただいたのが6年ほど前で、萩原さんという方が「森んくクラブ」というのをやっておられまして、そこでいろんなお話をさせていただきました。それと、いまご紹介いただいたように、旧暦カレンダーを1発行しまして、昭和62年からやり出してもう27年目になります。名田庄が安倍晴明の出身地で、表敬訪問をさせていただこうと考えていましたら、こちらから電話をいただいて寄せていただくことになりました。何回か勉強会でも来させてください、そのうち暦の里がここなのだからここでなんとか暦を発行して、それを全国に広めて行けたらいいのになあという話をしていましたら、ここに来ておられる中村さんが私はデザイナーだし、そんなのは出来ます、ということ、旧暦のカレンダーを出していただいてもう4年になります。縁があるというのはそんなことではないかと思えます。

そんなこと聞いたことありますか？あとから学者がいつて調べると書類があるから、それ見ろ、やつているではないかとなる。それはニューギニアだけかと思つて、わたしはマーシャル諸島やミクロネシア、北マリアナ太平洋諸国のいろんなところを訪ねました。するとみなそうなのです。日本軍が駐留していたところほど今でも日本人を尊敬してくれている。信じられますか？ わたしは実際に体験してきている。いまでも皆さんを連れて行きますよ、そういうところに。

だから、それがどうしてこんな嘘になつて伝わるのか。まあ、みんながみんな神仏のような人でないのはあたりまえです、悪い人もいたでしょう。だけど、この事実は何とか伝えられないだろうか、南太平洋協会を昭和56年に設立しました。今でも続いています。34年になりました。

旧暦を勉強してカレンダーを作る

その南太平洋協会を、公的資金に頼らずなんとかやつていく方法はないだろうかと考えたのが、実はこの旧暦カレンダーなのです。まだ誰も発行していませんでしたから、昭和62年に発行したときに、日本で115年ぶりのことで、大手新聞に大きく報道してもらいました。それがずつとうまくいつているかというところじゃありません。最初は4000部くらい売れました。景気が良くなつてバブルの時代には8000しか売れなくなつた。景気が悪くなつたらまた売れだした。最大で8000

0部まで行つて、いまは6000部くらいです。ここ2、3年、わたしが中国放送で話をさせてもらつたりテレビに出たりしているの、ちよつと注目度も変わつてきたのかなと思ひますが、景気が悪くなると旧暦カレンダーは売れるのを知っていますから、いま売れ始めたということは、安倍さんの言っていることは嘘かなと。

いずれにしても、世界を見て来、先進国といわれているところがこの50年間にどんなことをしてきたのか。わたしは学者でもない、企業の人間でもない、行政の人間でもない、政治家でもない。一介の船乗りとして世界を回つて感じてきたことがあります。政治家でいまいろんなことを言っているひとに、ヨットを貸してあげるからちよつと世界を回つてきてごらんと言いたいです。実際に一般の現地の人々と接したら分かると思います。いま伝わっていることと全然違います。韓国の漁船の人たちがラスパルマスでわれわれのために大パーティーを開いてくれたのです。日章旗を掲げたヨットを皆が歓迎してくれました。あらゆるところの人が大歓迎してくれました。それから40年経つた今、日本人が何か悪いことをしたのだろうかと思ひ議な気がします。

そういう前提でわたし自身が旧暦をずつとやつているのですが、これからお話しますが、わたし自身もまへは旧暦の旧の字も知らなかつた。ヨットから帰つて沖縄で3年間設計の仕事をするまで。でも自分で勉強しながら、あれ、これはちよつと大切な文化を失いかけていないか、そんな気がしましてずつとやつておりましたら、今度は旧暦時代の燃料はいったい何だったのだろうか、日本の文化をどんなエネルギー

ーで支えていたのだろうか。ニューギニアの人たちは1日1ドル以下の生活であんなに幸せそうにやっている、ああいう世界が21世紀にあること自体が世界遺産でないか。それなのに誰もほとんど知らずにやっている。今、世界中どこに行つてもいわれている環境共生社会の原点だと思えますね。燃料は炭だったのです。それで炭もナラだとかクヌギだとかの立派な炭ではありません。雑炭なのです。穴を掘つて伏せ焼きでやつていた。それを今作れないだろうかということ、旧暦からスタートしてドラム缶で焼く炭、やわらかい炭、雑炭を焼いています。ナラ、クヌギの炭を焼いている人から見たら、こんな炭ではない、消し炭だといわれるようなものです。それを足で踏むと粉炭になります。それは地質改善に使えます。固形のままなら燃料です。そこに到達できたのも、「自然と暮らす「旧暦」と本日」のテーマにあるように、原点は旧暦にあつたように思います。そういう意味で、ここ名田庄で旧暦カレンダーを発行していただけるのは私としてはほんとうにありがたいことです。

旧暦を読めると

お手元の資料を確認したいと思います。まず、暦、これは昨年の暦です。今年の2月18日まで使えていました。2月19日から今年になりました。今年になつてからまだ少ししか経っていませんよ。今日は旧暦の1月15日です。まだ1月なのです。この暦の見方が分からないと、な

んの意味ありません。自然と暮らそうと思つたら、この暦が読めると非常に得をします。その話を今日させていただきます。もうひとつの資料、これは環境共生社会を推し進めようと運動しているアメリカの団体、ネーチャーシニアリング協会が年に4回出している機関誌が去年暮れに旧暦の特集をやってくれました。女性の記者がまとめてくれたのですが、非常に良くまとめられています。お帰りになつて2,3回読んでいただくと今日わたくしが話していることがああそういうことなのかと分かつていただけると思います。

もうひとつは、プリントが2枚ありますが、今日のスライドの中に出てきますが、ちよつとややこしいことなので、プリントしてお渡ししました。これは繊維業界では非常に権威のある新聞で、織研新聞というのがございまして、普通業界紙の場合1週間に1回なのですが、これは毎日出ています。その1月1日号で、それも27年連続で出ているのですが、クラブ株式会社小林弦彦先生が4年前に亡くなられて、わたしが引き継いで「旧暦による天候予測」、旧暦で見ると次の年がどんな年になるのか、何が言えるのか、こういうことを毎年書かせていただいています。昨年の2014年分と今年の2015年分のコピーです。ここに採点表がついています。予測したけれどそれが当たったかどうか、春夏秋冬それぞれ何点ずつとれているか。これは本当に厳正な採点で、わたしも怖い思いをしながら毎年書かせていただいています。わたし自身27年カレンダーを出していて、旧暦での天候予測はだいたい7割5分くらい当たっている。これだけ地球温暖化したのになぜ当たるのか。

非常におかしなことが起こっているのは、現実にはこれはごく最近あったことですが、農業高校の先生が「わたしは旧暦で農業を教えています」と言われるのですね。どういう風にしてですかと訊ねると、「二十四節気どおりに農業をやらしています」と。二十四節気は新暦に付いているのですね。立春といったら2月4日です。節分の次の日。春分といったら3月21日です。太陽暦で出来るのなら、なぜ農暦にわざわざ太陽暦を作る必要があったのか。七十二候もそうですね。旧暦だと勘違いしていらっしやる。七十二候は二十四節気を三分したただけですから。農暦と云われる暦が行き渡っていないのは、面白いことに、アジアでは日本だけです。

日本では旧暦のことを学校でまったく教えません。韓国も台湾もインドネシアの人もマレーシアの人もシンガポールも、華僑の方がおられるところはもちろん、韓国はむろんそうですね、ちゃんと19年に7回閏があるとか、閏月が入ったときはどういうふうな傾向になるのだとか、そんなことくらいは学校で習っています。アジアの経済統合などと言っていますが、政治や行政にたずさわる方々もほとんどご存じないようです。残念ながら、それが現実です。学者の方もほとんどご存じないです。国文をやっておられるかたでも、実生活に生かすという視点を全くもっておられない。

なぜそういうことになったかということ、わたしは、ここ7年ほど、中村さんといろんな話をしながら、どうやったらわかりやすい暦が出来るだろうかといろいろ工夫してきました。このデザインは中村さんの

デザインです。本屋に並べてもみてもらえるようになった。いま、20社くらいが陰暦とか旧暦とかカレンダーを出しています。で、われわれのは知名度がありませんから、ざっと並べられたら下の部分しか見えない。旧暦という表示が最初は上にあつたのですが、それでは何のカレンダーなのか分からない。いまはこうやって下にあるので旧暦だと分かってもらえる。まだそのレベルなのです。名田庄のみなさま、どうぞよろしく。

旧暦との出会い、ヨットでまわった世界周航の旅

わたしは設計事務所をやっています。本業は病院とか老人ホームとか住宅とか、あるいは都市計画、町づくり村おこし、それらが専門です。広島で生まれて被爆しまして阪大を出て竹中工務店に8年ほど勤めていました。

旧暦との出会いはヨットで住環境を見てこようという旅からでした。1974年から75年にかけて。そこで、われわれの時代GPSもなければオメガもデッカもない。デンマークを1974年7月11日に出発して、地中海、大西洋、カリブ海からパナマ運河を通ってガラバゴス、マルケサス、トンガ、ニューギニアから日本まで、42,000キロを1年9ヶ月かけて。この間に、時差が1時間であるのは15度動いたときだなど。六分儀とクロノメータで位置を計算して出します。だから、コロンブスの時代とあまり変わらない航海術です。それしかできなかつた。15度進むと1

時間時差が出る、あれ、これ二十四節気ではないか！ 1年365日、1日は24時間、そして地球を1周すると360度。それを15度ずつ区切っていくと24になる。24×15は360。地球一周になります。二十四節気はこんなことからきているのかと気づきました。わたしの旧暦はこんなところから始まったのです。

日本から出発するときはデンマークのコンテナ船、ユトラディア号49,000トンに乗せてもらってヨーロッパまで行きました。デンマークでヨットの準備をしてヨーロッパの内陸水路を通過して、フランスではラングル高原の354mの高原にある内陸水路を通過して地中海に出たのです。ヨーロッパを縦断するのに約2,000キロあります。78日かけて内陸水路をヨットで通ってきたのです。これはラングル高原の水路を通っている写真ですが、水の立体交差です。下を川が流れていてトンネルを水路が通っていてそこを行った。ナポレオンの遠征軍をこういった水路で運んでいたのですね。これはカリブ海ですね。七つの海には七つの色があると言われますが、それを5つくらい見えました。

これはガラパゴス諸島です。これが私のヨットで、高さ150mくらいの岩峰が横に見えます。一木一草も生えていない。火山が破裂して出来たそんなままでした。15くらい島がありました。トンガやいろんなところに寄って現地の人のおつきあいをします。カリブ海なんかでは植民地時代にヨーロッパ人が何をしてきたか、現地の人々がヨーロッパ人を決して尊敬していない事実が、はっきり分かります。そういうことも教えられました。わたし自身、「日本のマスターカントリーはどこ？」

と訊かれた。マスターカントリーというのは、ご主人様の国ということですが、「日本も植民地になっていたのでしょうか。今は何語なの？」と。カナダ人の大学の先生の奥さんが訊いてくるのですよ。有色人種の国はすべて植民地だったとしか思っていない。それが40年前の現実です。

ところが私が回ったところの人たちはわれわれを本当に尊敬してくれた。なぜか。それはわれわれがナビゲーター、航海士だから。彼ら先祖が作っていたくらいの小さな舟で世界を回っている、それを認めてくれている。だから、付き合ひ方が全然違うのです。一つの島に寄って2週間ほどいますと別れが辛くなってくるのです。いろんな人がいろんなプレゼントを、手に入る物を持ってきてくれる。この写真を見てください（次ページ）。バナナのワンストック、50キロくらいあるのですが、それが4つもプレゼントされた。全部で200キロ、二人でどうやって食べようかと。腐らしてはいかんで、デッキの上に新聞紙を並べて皮を剥いたバナナを干した。干しバナナを作りました。バナナボートに乗ったようなものです（笑）。



一番最後に寄ったのがエアウリピック島というカロリン諸島の小さな島なのですが、ニューギニアから北上していつてグアムとかサイパンとか、フィリピンとの中間くらいに位置する島です。後ろに見える小さい島は直径70mくらいです。この島には130人の人が住んでいる。この人にとってみればこれが世界なのです。ここからどこにも行っていない。昔は行っていたのです、自分たちでカヌーを作って。われわれ二人が日本に帰る最後の旅のために、船の燃料を分けてくれました。日本に帰って港を走るにはどうしてもエンジンで走ることになるので燃料が必要です。

なにかお礼が出来ないものかと考えていたら、「タマネギ2個と釣り針5本をいただけたら」と言われた。そんな小さな要求でした。帰ってから島の酋長から手紙が来て感動だったのですが。途中、9昼夜半、デッキが水没するような大嵐状態で、一日一、二回水を飲むのがやっとこさで、これは日本に帰るな、ということかと思いました。

世界周航の旅で知ったことですが、当時の日本にとって北欧やヨーロッパは、福祉などいろんな社会制度にしても日本の理想とすべき国だといわれていた。ヨーロッパの中世の町が残っている中部ヨーロッパ、フエキア人やエジプト文明、あるいはもつと前の時代の文化が残っている地中海。それから奴隷によって作られたカリブ海の国々。まさに原始共産社会、お金を使うという文化もない、そういう南太平洋の島々。時代をさかのぼるような旅を続けてきた。

そこで感じたことは、幸せは、豊かさや便利さに無関係だということとです。どんな貧しいところにも幸せはあるし、どんな豊かなところにも不幸はある。各地域の環境思想、自分たちが環境に対してどんな付き合いかたをしているか。それによって幸せがある。幸せにグローバルスタンダードはないということです。それから、日本人や太平洋諸国の人々には、自然を征服するという遺伝子はない、確実ないとわたしは確信しました。

ヨット世界周航の旅で見てきたもの

ヨット世界周航の旅で見てきたものには、このほか、日本の旧暦時代の生活技術は、世界の多くの地域で今も役立つということ。先ほど申し上げたとおりです。自然との正しい接し方を今のわれわれの年代の者が若者に伝えることで、日本の若者は世界中のエコロジー、環境共生社会のリーダーになれる。ところが、日本の環境教育の中で残念ながら、ものを作ることや、実践行動、それらがまったく教えられていない。バーチャルや理屈ばかりだったことが分かりました。

われわれ、低開発国とか発展途上国とかいっていますね、われわれは先進国だと。だけど、よく見たら退廃途上国でないのか。発展途上国とどちらが上？という感じがしました。日本だけでなくあらゆる組織が、世界中で、危険回避能力は衰退し、責任回避能力が増大している。これがいまの矛盾をいっぱい作っているのではないか。こんな気がいたします。

帰国して3年間、沖縄で仕事をやらしていただきました。町作り、村おこしとペンションの設計もやりました。沖縄では生活歴はいまも旧暦です。年中行事も旧暦で行われています。お年寄りはいまも「今日は旧の何日だからね」と言います。あれっと思ひ、わたしは高島易断を三冊取り寄せました。そこには新暦の今日は旧暦の何日と書いてあるのですね。それを3年分引き出してみますと、一ヶ月が29日か30日しかない。31日がない。3年目に1年が13ヶ月の月が出てきた。

えっと思ひ、こんなところから勉強を始めたのです。

先ほどもお話しましたが、赤道上を15度ヨットで走ると7日間かかる。デッキ上の時間が1時間縮まってきました。時差が1時間出る。ああ、これが二十四節気か、ということになったのです。それで、旧暦カレンダーを作つて南太平洋協会の活動資金になればと思つてやりました。

このスライドは、昭和62年の朝日新聞のコピーです。「旧暦を復活させた南太平洋協会(ASPAC)」とありますが、見出しに「太陰歴カレンダーを復活」とありますが、これは間違っていますね。正しくは太陰太陽暦です。

舊暦辨

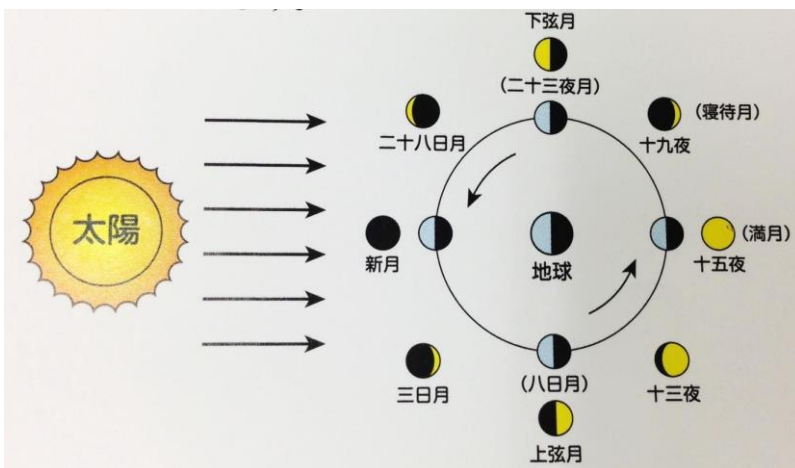
この写真の右側は、明治6年の1月1日に発刊された福沢諭吉著の「改暦辨」です。明治5年の12月3日をもつて明治6年1月1日とする、その公告が前年の11月9日に出されました。そして明治6年1月1日に発刊された冊子です。3200万人くらいの人口の中で400万部も売れた。これには旧暦がぼろくそに書いてあります。いままでのような太陰太陽暦を使つていたから日本は遅れているのだとか、農暦といっているが農業にはまったく役に立たないだとか、まあひどいことを書いたものです。わたしは、この改暦辨を真似て、「改暦辨」の「改」を旧の古い字体の「舊」に替えて「舊暦辨」という教科書を平成25年1月に作りました。デザインをそのまま使っていますが盗用にはなりません。期限が

きていますからね。「改暦辨」に対して「舊暦辨」です。福沢諭吉が作った「改暦辨」には官許とありますが、わたしのは非官許にしました。これと『旧暦と暮らす』という本、それに『庵を結び、炭をおこす』という本も出していますので読んで貰えたらと思います。

旧暦の仕組み

旧暦の仕組みについて説明します。新暦はご承知の通り太陽を基準にした、太陽の周りを地球が一周するその時間を表したものが新暦です。旧暦は月の満ち欠けを基準にしています。位置関係からいうと太陽があつて地球があつて(1億5000万キロも離れていますが、光のスピードで8分12秒かかります)、365.25日かけて地球は太陽の周りを回っています。お月様はその地球の周りを回っている。太陽があつてお月さまがあつてそのうしろに地球がある場合、これは逆光になって、夜の地球からも昼の地球からお月さまは見えませぬ。この日を旧暦では一日とします。「ついたち」は月がだんだん大きくなってくる「月だち」から来たのです。三日目になって見えるのが「三日月」です。そして上弦の月、満月、下弦の月となっていくきます。満月、十五夜お月さまというのは、太陽と地球の位置関係でいうと地球の後ろ側に月が来たときです。まっすぐに並ぶと月食になります。したがって、月食は旧暦の15日か16日にしか起こりません。日食は旧暦の一日にしか起こらない。だから、日食も月食もはるか何千年も前から中国で予測が

出来ていたのですよ。直角方向になったときが、八日月とか二十三夜月、上弦の月、下弦の月ですね。上弦の月、下弦の月はどうやって見分けるんですかとときどき訊かれますが、出ている時間帯がまったく違います。夕月夜(ゆうづくよ)、朝月夜(あさづくよ)。太陽が出ているのに朝がた白い月がちよつと見えることがありますね。あれは満月を過ぎて月がだんだん小さくなっていく下弦の月です。



上弦の月というのは、夕暮れと同時に低い位置に三日月が出ています、それが上弦の月です。池のある家ならそれが池に映って薄くらいぼんぼりの明かりの中におひな様が飾つてあるのが旧暦の3月3日のひな祭りです。だから、上弦の月と下弦の月とを見間違ふことは絶対にあり得ないのによく訊かれるのはなぜか。月を見たことがない人なのです。そういう人はいつばいいいます。それくらいは学校で習つたはずなのですが、もう忘れてしまつています。

月の一ヶ月が29日か30日なのは、29.53日でだいたい同じ形に見えてくるからで、それを12倍すると354日になる。それで月の一年は354日になります。太陽の一ヶ月が30日か31日なのは365を12で割ると30.5ですから、30日か31日になる。それで太陽の一年と月の一年で11日の差が出てくる。3年経つたら33日の差になる。どう処理するのか。旧暦では、1年が13ヶ月となる閏年を設ける。普通、閏年といえ、二月が29日になるわけですが、旧暦のことをどこかで習つていなければ分からなくて当たり前です。そんな状態に日本はなつていくのです。

旧暦時代は俳句を作る方にとつては季語が非常に明瞭です。一、二、三月が春で、四、五、六月が夏です。六月で夏は終わりです。もう梅雨も上がつていきますから、かんから干しなので水無月(みなつき)といいます。七、八、九月で秋は終わりです。十月から冬なのです。

旧暦のカレンダーの使い方

旧暦のカレンダーの使い方についてお話しします。手元のカレンダーの一枚目をご覧ください。もうすでに旧暦カレンダーを使つていらつしやる方はおられますか？ああ、案外少ないですね。初めての方が多いようなので説明させていただきます。

お手元の旧暦カレンダーを見ていただきたいのですが、11月から出ています。なぜかといいますと、11月1日を見てください。「暦配り、顔見せ」と書いてあります。歌舞伎の顔見世興行が始まつたのが旧暦の11月1日なのです。それが去年の場合新暦では12月3日でしたよと。右隅に小さく書いてあるのがいまの暦です。それから月火水木となぜ日曜日から始まつていないのか。キリスト教徒にとつては日曜日は週の始まりの安息日です。トンガなんかでは泳いでいても怒られますよ。力仕事なんかしてはいけない日なのです。日本のキリスト教徒は人口の1%、120万人くらいです。それくらい少ないのなら、キリスト教徒の暦の形式はやめて土曜日・日曜日で終わるよう、曜日を配列しました。ヨーロッパの暦の日月火水木に並べた旧暦は、暦の研究家の中牧弘允先生の研究によると、この1500年、どこからも出されていないことが分かりました。

表紙を見てください。右の下隅のほうに「スローラフの必須アイテム、太陰太陽カレンダー実用新案」となっています。昭和62年に申請して9年かかりました。日本のいかなる公的機関も旧暦にはタッチしていな

いのだとということを証明してやっと思いましたが。こんな暦はどこにもないので、特許になって当たり前だということです。実用新案は15年で切れるのでとくに切れているのに他社は真似はしませんね。実生活に活かそうとすると、このようにひとつの季節を1枚に入れると使いやすいいということが、おわかりいただけると思っています。次を開けてください。

1月、2月、3月が春です。去年は1月31日がお正月でした。今年が2月19日がお正月です。毎年違います。最後のほうに書いてありますが、昨年の春は新暦の1月31日から4月28日までです。春はいつからいつまでですかと問われると、新暦ではなかなか示し難いですが、旧暦でははつきりしています。1月から3月が春です。604年から日本ではこの太陰太陽暦を使っています。ちよつとずつ変わっていきますが、1872年、明治5年まで使われていました。1296年間、日本人の季節感はいかにあったのです。

次のページは4月、5月、6月です。5月は梅雨時なのです。「五月雨を集めてはやし最上川」。これは5月の増水した最上川を詠んだ句ですね。それから、高橋川の支流の足守川で高橋城の水攻めを秀吉がやりました。それは旧の5月7日。さわやかな五月晴れのもので水攻めなんか出来るわけがないのです。旧暦を知っていると歴史の真実が明瞭に分かってくる。月名がわかるとどんな季節でどんな草花が咲いていると、そんなことまで予想が出来る。旧暦は非常にうまく出来た自然暦だとわたしは思います。

次のページが秋になります。7月、8月、9月が秋なのですが、去年は7月、8月、9月と閏9月があつて秋が4ヶ月ありました。まあ、普通の人は、「こんな旧暦で秋が4ヶ月あつたら秋が長引いて冬が遅れるなんて、気象庁のデータを見て見ろ、そんなのはどこにもない」と明瞭に否定されます。科学者ならほとんどそうです。だけどどうだったでしょうね、去年は。秋が長くなかったですか。1年や2年やつて当たっただけでは、それはたまたま当たっただけだとなりますが、わたしは27年体感しています。

去年は閏9月があり冬の入りが遅れた。次の冬のページを出してください。冬が本当に冬らしくなるのは、初冬仲冬晩冬と3ヶ月あるうち、仲冬11月からです。つまり11月1日あたりから本格的になる。クラボウの小林弦彦さんがお仕事でタイに4年間赴任されているときに当地の繊維業界を牛耳っていたのは中国の人たちでした。中国の人から「小林さん、あなたは旧暦を知っているのか」と言われた。「旧暦で天候予測が出来るんだよ、冬物のシーズンは農暦(旧暦)の11月の1日くらいからだよ」。そんなことを言われた。タイでは日本と比べると季節変化は明瞭でないのですが、アレツ?ということがたくさんあり、帰国してから自分なりにいままで付けていた日記と照らし合わせてみると、確かにそうだった。

去年はどうだったかというところから本格的な冬になった。ただ、前半にすごく寒いときがありましたね。広島でも雪が30センチほど積もった。それこそ、12月の3日か4日に。気象庁のデー

ターを調べると、二つ玉低気圧という、山岳部にいたら一番注意しなければいけない気象状況なのですが、それが来たことによるものだったので、本格的な冬はやはりクリスマスのところからでした。それから旧暦の冬は2月18日までだった。だいたいそれに近かった。だけど気象庁は昨年からなんと言っています？「このたびの冬は暖冬である」と言い続けています。まだ言っていますね。「桜の開花は早いと」。早くないと思いません。

わたしが肝心なことで印象を受けたのは、夏のところを開いてみてください。旧4月1日は新暦の4月29日でしたね。ゴールデンウィークの始まりは旧暦で言うと4月に入ってからです。去年はですよ。わたしは広島の上流、広島市内から50キロほど上流の安芸太田町から毎年18年、カヌーとゴムボートで川下りをしていました。5月の連休に。18年の記録の中で2回だけ外れました。何が外れたかという、ゴールデンウィークが4月にある年、これはそこそこ暖かいからまあTシャツ半ズボンで行けないことはない。ところがゴールデンウィークが3月に入るときがあります。その年は確実に寒い。もう唇が紫色になる。それが18年のうち2回外れただけです。だから繊維業界の方が75%の確率で旧暦で天候予測ができるよとおっしゃっているのを、自分はそれを自然とのふれ合いで実感できた。だから、こんなことは2年や3年やっただけで分からない。たまたま当たったのかも知れない。少なくとも、まあ15、6年。20年日記を付けながら体感したら分かります。

繊維業界の多くの方はこの旧暦カレンダーを使っておられます。ゴールデンウィークの商戦として4月にゴールデンウィークが来るときはTシャツやタンクトップで大丈夫。3月にゴールデンウィークが来るときの商戦は、それらにベストや羽織り物を付けた方が良い。このことを知っているか否かで圧倒的な差が出てくる。わたし、毎年関西フアッション連合で講演をやらしてもらっています。繊維業界の方は10万人くらい旧暦を使っておられます。まだたった10万人です。役に立つということ。

ところがそんなに綿密にカレンダーを見てやる時間はないわけですね。それで先ほどお見せしました「織研新聞」に毎年こういうことを出しています、これでやっとなぜか皆さまに気づいてもらったということですね。

二十四節気

ここにありますように、二十四節気を書いてあつて、歴史上の出来事が書いてあります。月の姿は一日が新月ですので真つ暗になっています。先勝とか壬寅とか、こういう六曜も干支も表現しています。二十四節気ですが、2014年はどうだったかという、1月に立春と雨水が来て2月には啓蟄と春分が来て、3月には清明と穀雨が来て。本にはこれしか書いてありません。だけど毎年こうとは限らない。雑節(節分、彼岸、社日、八十八夜、入梅、半夏生、土用、二百十日、二百二十

日)は日本で考えられたもので、九つ上げられています。

(編集者注…二十四節気。ウイキペディアから引用。)

二十四の名称の由来を種類別に分けると以下のようになるだろう。

昼夜の長短を基準にした季節区分(各季節の中間点) |

春分・夏至・秋分・冬至(二至二分)

昼夜の長短を基準にした季節区分(各季節の始期) |

立春・立夏・立秋・立冬(四立)

気温 | 小暑・大暑・処暑・小寒・大寒

気象 | 雨水・白露・寒露・霜降・小雪・大雪

物候 | 啓蟄・清明・小満

農事 | 穀雨・芒種

二十四節気は、旧暦の四季をおおまかに区分するために、太陽暦の日付で決められている。春分は3月21日頃だし、夏至は6月21日頃です。二月が29日あるときだけ1日ずれる。旧暦の正月はどうやって決められたかという点、立春が一番近い新月の日です。2014年は1月31日が旧暦の正月です。2015年は2月19日が元旦です。年賀状で“新春をお喜び申し上げます”というのは旧暦の一月一日から新年になったからその名残りです。いまはみんなで大嘘をついているのですね。冬の真つ最中に“新春”と言っている。七草粥もこのあたりだと明瞭だと思えます。新暦の1月7日では、天然の春の七草は入手不能です。これはみなさまが混乱されるし、よく反論としてでるのですが、わたしも

実際自分の村でやってみました。わたしは『旧暦と暮らす』という本を書いたとき、山梨県の増穂町というところに招福寺というお寺さんがあります。海拔が300mくらいのところなんです。ところで、この旧暦は京都を中心に作られたものです。ですから、その招福寺の先々代の住職さん、そのときはすでにお亡くなりになつておられましたが、いまの住職のお父さんに聞いた話です。

その方は若いときから京都の親戚と手紙のやりとりを30年やって、各季節、冬の始まり、春の始まり……。そのときどきのそれぞれの花や草のことなど。例えば、タラの芽が出たのは、京都の親戚のところと自分の寺の裏山と何日差があるのか。30年それを繰り返して偏差値を調べていた。それで、京都で作られたこの旧暦が山梨県の増穂町だどどれくらいずれているか。それをちゃんと出した上で、庄屋さんにも伝え、あるいは農家の人に伝えて、今年は何作業はこれくらいに始めた方がよいよ、などしておられた。調べてみたら、そこだけでない。鹿児島県の指宿でもそうしておられる方がいる。福島県の会津若松にもおられる。暦を偏差値まで調べて役立てておられる。それまでやらなければ農業には使えないということなんです。気象庁のデータはその土地の天候予測には使えないということなんです。

わたし、阪神大震災の年に、1995年から広島県山県郡安芸太田町に住民票を移しました。阪神大震災で西宮の家がつぶれたから、ヨロツパなどの都市居住者が、別荘などというものでもなく、小さなロツジを建てて畑をやっているのを知っていたので、自分もそれをやろう

と決めました。今年で21年目になります。当時85歳の広島の大朝町というところのおばあちゃんが、立春が12月に来る年と1月に来る年とで農作業の始め方が違うのだとおっしゃった。そのとき、「なんのこど？」と思いました。沖縄の年寄りも同じことを言っている。

ちよつと見てみましょう。去年は1月5日が立春です。1月に立春が来ているということは、立春が来たときはもう春になっていたよということですから、春の訪れが早い年です。立春が12月に来ている年は春の訪れが遅い年です。わたし、10年間の日記を見てみたら、まったく外れていないことが分かりました。その通りなのです。

だから皆さまも是非初めて欲しいのです。わたしがいくら口で言ってもだめです。やってみられて、そうですね、3年ではダメです、5年やってみてください。前も言いましたが、人間が作った通り自然が動くはずはないですよ。わたしは27年の記録で7割5分当たりました。2割5分は外れています。外れる年もあります。旧暦時代だって飢饉の年はあつたわけですから。立春がどこに来るかを見て、まずそこから始めてみてください。これが旧暦を農業に生かす原点です。

旧暦の日付をそのまま採用している年中行事

3月3日の雛祭り。これは三日月のときの年中行事です。しかも、みなさん、もうすでにお気づきかと思いますが、お正月には梅がある、床にも飾ります。それから3月3日の桃の節句が来て、入学式のころ

桜が咲いているから、梅が咲いて桃が咲いて桜が咲くと思っていらっしゃいませんか。旧暦の大家である岡田芳朗先生まで間違つて書いておられる。桃が初めて咲くと桜が初めて咲くとが逆転しています。日本中の本に全部そう出ています。わたしは27年前から逆転させて書いています。自然界での開花は、梅、桜、桃の順番であると。しかし、年によっては同時に咲くことがあります。福島県の三春町では梅と桜と桃がいとも同時に咲きます。それで三春だと。

端午の節供、梅雨どきの行事です。金太郎がまさかりを担いで鯉に馬乗りになって滝登りをしている図があります。幟に描いてある。わたしもよく子どもの時に見たことがあります。幟というのは縦の竿があつてそこに縦の絵を付ける。それを雨の中に立てて鯉の滝登りを象徴していた。いまのような吹き流しになったのは江戸時代中期以降です。もともと、端午の節供は梅雨どきの年中行事でした。さわやかな五月晴れの行事ではないのです。

七夕は新暦では7月7日ですね。梅雨の真つ盛りです。もともと、「七夕」は空を見上げる星祭りです。秋になつて第1週目の年中行事です。牽牛と織り姫がデートができるのはちょうど半月のときで、9時から9時半ごろ、天中の天の川に半月がかかつて天の川が見えなくなります。それでデートができるのだと。そういう天空ショーなのです。シニエーションが非常に微妙です。だから、一ヶ月遅れでやったところで月なんか関係ないですね。それでは満月のときもあれば新月のときもあることになる。半月のときでなければ本当の七夕ではない。

熊本の「子育てネットワーク」の方々は、幼稚園や保育園を経営しておられるグループなのですが、そこへ旧暦勉強会に呼ばれていったときに、もう何年か前から新暦と旧暦と両方で子ども達に五節句をやっているのだと。そしたら、桃の節句などは、「桃が咲いていないのになぜいままで桃の節句をやっていたの、嘘つきでないの」と子どもに言われたというのです。子どもの方がはるかに良くその辺のことを観察して自分の体内に取り込んでいることが分かった、そういう話をして下さいました。中秋の名月、これだけはどうしても旧暦に換算しなければどうにもなりません。

新暦への移行によって季節感に大きなずれができた。季節感あふれる国に住みながら季節感を失ってしまつて、年中行事の意味すら忘れていく。これをもう一回取り戻して、それぞれの日付をもう一度認識し直したらどうだろうか。今日は3月15日ですが旧暦だとまだ1月25日です。初春の季節です。桃の花は咲いていません。こういうふうなことも意識してみたら良いかなと思います。2014年、15年、16年、それぞれの五節句がどれくらいずれているのか、それだけでも手帳に書いておけば季節感をずらさずにおれる。これは確実です。旧暦の知恵を生活に生かす。立春の位置で春の訪れが分かる。立春が冬の間、つまり旧暦の12月に来るとき、その年は春のお訪れが遅い年なのです。立春が旧暦の1月に来る年、立春の日はすでに春になっています。春が早い年なのです。

こんなことを言っても「なにをいつているのか、地球は太陽の周りを

回っているのだから月の影響なんか受けるわけじゃないじゃないか」と、ほとんどの人がそうおっしゃいます。だから、自分でやつてみなければ分からないのです。わたしがいまこうして堂々と話ができるのは、20年間、畑をやり田圃をつくりやつてきたからです。田舎に住みました。自分の裏の山にタラの芽が出たのはいつか、旧暦カレンダーに付けたら、毎年そんなにずれはありません。新暦に付けたらばらばらです。

八十八夜(新暦5月2日頃)が新茶のシーズンであるという先入観があるため、本当のお茶が消費者に渡らない。宇治茶の生産農家の谷口さんがおっしゃっているとです。ここ一番の摘み頃は72時間しかないのです。宇治茶の旬は、旧暦4月1日前後(2014年の場合4月29日頃)。八十八夜は新暦で5月2日ごろですから、毎年5月2日が旬なら苦労しないのです。宇治茶の旬が旧暦4月1日ごろというのは何年もやつているから分かることです。八十八夜は2014年は4月4日でした、2015年は3月14日です。今年は八十八夜にお茶を摘むのは早すぎて本当の意味でのいいお茶ではない。谷口さんもはつきりおっしゃっています。旧暦のどこに二十四節気が入っているかで季節が読める。それが理解できるまでは、旧暦が役立つよといつてもあまり意味がありません。

繊維産業での応用

2009年は閏5月がありました。夏が長かった。秋の入りがずれま

した。ここに黒い線、でこぼこがありますが、これは冬物のシーズン、旧暦の11月1日がどこに来ているか、それを示していますが、前年と同月日ではないことを示しています。これを繊維業界のかたはやつと取り入れ始めた。隣の店がバーゲンやっているからうちも、そんなのではもうけになりませんよと。旧暦でベストシーズンをつかみましよう、繊維研新聞のおかげです。2014年はどうか、閏9月があります。秋が4ヶ月あります。年内は暖冬気味になる。年明けから厳冬、2月下旬までダメ。だいたいこれは当たっていますね。繊維業界では旧暦は活かされていますが、残念ながら農業に携わっているかたがそこまで明確に取られているかどうかはちよつと分かりません。今年のゴールデンウィークは暖かいかどうか体感してみてください。

旧暦暦の見方

お配りした資料のこの図を見てください。円が何重にも描いてありますが、外側が新暦の1月から12月、内側に旧暦が対応して書いてあります。広島郷土史の本に出ているのですが、広島梅雨時期の予測にこんな旧暦時代の言葉が民俗資料に残っています。「5月半夏は後走り、6月半夏は前走り」。半夏は半夏生のこと、半夏生は夏至から数えて11日目の日のことです。この言葉をこの図と関連づけて説明します。

2014年ですが、旧暦四月、五月のところに、芒種があつて夏至が

あつて半夏生があります。この図では半夏生は6月に入っていますね。これを見てください。今度は2015年です。同じように、芒種、半夏生の所を見ると、今年も旧暦の5月のところに入っています。新暦の同じ7月2日が5月の今年のようにちよつと真ん中より後半に入っているのと、昨年のように6月に入っているのとあります。年によつて違つたのです。5月に入っているのは梅雨が長引くよということ。6月にあれば早く梅雨があけるよと。それが「5月半夏は後走り、6月半夏は前走り」とちやんと言われていた。どうしてそんなことが言われていたのか、それはこれが農業をやる人の基準になつて記録に残っていたからです。ところが、この記録を編集した人が何の意味も分かつていない。

京都と広島ではちよつとずれますよ。しかし、わたしの20年の感じでは京都と広島とはあまり差はありません。せいぜいあつても2日か3日。山梨とここだったらだいぶ違つでしょうね。8日ほど違つとおつしやつていました。ここと京都とで、また、違つかも知れません。雪の量が違つのですから。同じ村のここに来る春とここに来る春とは違つのですから。自分の住む家の裏山でタラの芽が出たのがいつか、それを比べなければ意味がないですよ。

旧暦を知れば歴史小説ももっと面白い

皆さまご存じの赤穂浪士の討ち入り。1702年の12月14日と言

いますが、実際は1703年の1月30日だったのです。いまの曆にした
ら。だから東京に雪が降っていて当たり前のことです。14日は満月の
前夜です。月明かりを利用しようとした。たまたま雪明かりもあつた
というだけです。

本能寺の変。1582年6月2日。闇討ちをかけたのです。1582年
の10月にグレゴリオ曆がヨーロッパで採用された。でも、カソリックの国
だけです。プロテスタント、イギリスやドイツではいまのグレゴリオ曆を
取り入れるのは70年あとです。ですから太陽曆にも旧曆があるので
す。日本にやってきたロシアの船はクリスマスが12月24日でなくて1月
7日だった。それが日本の記録にちゃんと残っている。この国は古い曆で
やっている、こんな古い国の文化なんか学んでもしょうがない、と堂々
と書いている。

関ヶ原の戦。1600年9月15日。満月の日です。戦いの日について
は、いろいろ説はありますが、誰が味方になるか誰が敵になるか分から
ないとき、敗走するときに月明かりがなければ、とてもじゃないが逃
げられるものではありません。それでこの日を選んだのだと、曆の研究
家から言われれば、なんとなく分かります。

趣味での応用

キウウレキスト、旧曆カレンダーを手元に、月を眺め心穏やかにスロー

ライフを目指す人のことをさういのですが(笑)、裏山のタラの芽の
収穫最適日を旧曆カレンダーに記載してみる、ギンナンの落ち始めの日
を、旧曆カレンダーに記載してみる。今、15年以上、NASAの旧曆カレ
ンダーを愛用されているキウウレキストは、6000人です。27年やって
まだこれくらいです。去年の暮れに『旧曆で今を楽しむ「暮らし歳時
記』という本を出しました。絵があつてとてもわかりやすいのでお薦め
本です。子ども達に二十四節気のことを書いたのが『二十四節気のエ
ほん』です。これには二十四節気が旧曆だとは書いてありませんから大
丈夫です。

このスライドは、気象予報士であり森林インストラクターであり銀行
員の元岡真也さんという方に四字熟語を作っていたいていいるのです
が、それを示したものです。ここ4年ほど一緒に仕事をしている方です。
「温夜朧月」とか「炎天照月」。彼なりに意味を考えて出している。かれ
が自分で家庭菜園をやりながら、「元ちゃんの今年の天気」と題してイ
ンターネットに出しています。いままで気象予報士の人もみんな旧曆を
馬鹿にしていました。あんなもので天気予報なんかできるわけがない。
ところが気象予報士のグループのなかで、旧曆をもう少し役立てよう
よという動きがあり、わたしも呼ばれましたが、ちよつとずつ勉強会も
始まつている。ちよつとずつ変わつてきた。

「新月 満月の大潮ときには、魚のバイオリズムも活発でよく釣れる」
といわれていた。これは地形に依りけりですね。狭い入り江の入り口で
は大潮ときには流れがきつすぎてかえつてつれない。しかし、一般的に

はこういうことが言える。

パプアニューギニアで

旧暦時代の生活こそパーマカルチャーです(編集注、パーマカルチャーとは、パーマネント(permanent)とアグリカルチャー(agriculture)を組み合わせ「永続する農業」という意味の造語)。炭を自然エネルギーに、自分で作る炭セミナーをやっています。しかし、火の文化も旧暦同様、死にかけて状態。旧暦も死にかけています。パプアニューギニア、龍谷大学の環境教育にドラム缶窯での製炭を昨年スタートさせました。家も自分で建てよう。あらゆるものへの手作り文化の復活を！です。いなか暮らしの時間軸は「旧暦」ではないでしょうか。パプアニューギニアでの支援活動として、自然に学んだ事おこしということをやっています。

1998年にパプアニューギニアでアイタペの大津波があり、被災人口は3万人くらいでしたが、3200人も亡くなられました。そこに駆けつけたのですが、3千人の村があったところですが、一軒の家もありませんでした。これはそのときの写真です。津波が押し寄せた方向に家の杭が倒れています。内海に流された人はワニに喰われた。外海に持って行かれた人はサメにやられた。それで大被害が出たのです。日本ではほとんど知られていません。この写真の真ん中にいる方は避難所のリーダーで、工業高校の建築の先生で日本の木造建築が丈夫なのは勉強して自分たちも知っている。被災地に物資を送るために大量の木が切ら

れているので、それを使って丈夫な家を作りたいからと相談を受けた。教えてくれないかと。それから15年、毎年この村に行っています。

われわれが行くまで2階建ての家は一軒ありませんでした。いま全部2階建てを立てるようになっていきます。行くと歓迎のパーティーをやってくれる。最初に行つて、帰りに現地のこのソウム村でまず竹を割り入れます。こま竹を組んで壁をつくる。赤土もあります、ワラの代わりに入れるのは椰子の繊維です。この方が強い。実際にこうやって、次に来て分かつたのは、この村では不同沈下を起こしていた。これでは土壁は使えない。普通の壁に変更した。そのときにジャングルの中で、土に埋めて杭にしても大丈夫な木、梁になる木、そういう木をちゃんと選定する、これは村の人はみんな知っていました。次の年に行つたら用意してくれていました。不同沈下を起こさないためにどうしたら良いか、穴を掘つてその底に割りグリ石を入れてそれを突き固める。これは日本の兵隊さんがやつていたのをみたことがあると年寄りが言っていました。

この写真は下で鳥居型の支柱を組んで立てているところですが、早く安全に作るためのこういう工法を取り入れてやりました。水平を出すために脚立の上にバケツを置いて、バケツの水面からホースで取った水面が同じ高さなのだと言っても、まったく信じてもらえませんでした。水平が出せなければちゃんとした家は作れない。直角を出すことも分からなかつたので、3、4、5の直角三角形で直角定規を作った。それから筋交いを入れることで、いままで2階建ての家が一軒もなかつたとこ

るに、この周辺の村の村はすべて2階建てになった。こういうことは実際にやってみせなければダメなのです。理屈で言ったってダメなのです。いま、若者は結婚したら自分の家を建てる。自分の家を自分で建てたい。それには設計ができるようになりたい。フリーハンドで図面を描くことを、もう8年教えています。

この写真は水洗トイレです。4年前に作りました。屋根の水を竹の樋で集めてそれを炭で浄化して、その水をこのタンクに入れて水洗トイレにした。完全にコンクリートで密閉して、点検口だけ作って、洋風便器ですからトラップで水を貯めることができます。虫も入らない蚊も入らない匂いも出ない。4年間使っていますが全然問題がない。炭で有効バクテリアが住んでくれるのと、地中へ全部しみこんでいく。穴があるだけで中には何も残っていない。

大工道具は使えるようになったが、鑿を研ぐ習慣がないので、研ぐのを4日ほど教えて、金物を一切使わないベッドを作りました。ニューギニア政府はマラリヤを防ぐために蚊帳は支援している。家は隙間だらけですから家に蚊帳を吊つても意味がない。それでベッドに蚊帳を吊る。この写真にあるような二段ベッドなら小さい子なら3人寝られます。中くらいの子どもは二人、大人なら一人です。こういうベッドを村人で作られるようになるように指導しています。これが、ありがたいことに、旧曆カレンダーの売り上げでやらしてもらっているのです。

これはドラム缶を土に埋めて、椰子ガラと流木はそこら中にありますから、それで炭を焼く。龍谷大学に農学部ができて、この話を

して環境教育で使えないものかと言ったら、先生が分かってくださって研究費の中からドラム缶の2連窯を作って炭焼きを始めた。大きい木は薪にする。何もしていなくて放つたらかしてある小枝を炭にする。畑の草も炭になりますから。そこで焼けた炭は、7割は足で踏みつけて紛炭にする。3割が燃料です。こういう活動をいまやっています。

本日のまとめ

旧曆を知らなくても、日常生活になんら困らないことも確かですが、旧曆の基礎知識を知ることによって、どれだけ生活に潤いを得られるか、計り知れない利益があります。旧曆を知れば日本の歴史や古典、時代小説がよく理解できますし、中華文化圏の人々の生活信条も理解できる。アジアの中で同じ季節感の中にいたということ、そうだったのに、いま日本人だけ違うのです。この名田庄を中心に、少なくとも日本全国に広めたい。

わたし、いま、考えているのは、北朝鮮の方と韓国の方と中国の方、それに台湾の方も一緒になって広島で始めかけているのですが、日本人の若者も入れた旧曆の勉強会です。旧曆は中国から韓国を介して伝わったのです。日本が一番知らないのだよ、そういうところから話を始めています。ここでも是非やりたい。

旧曆と暮らしていると、月を見上げる回数が増えます。これはどんなもおっしゃいますね。そして、“旬の食べ物”に目が向くようになって、

一年中キヌワリがあるのは何でだろうと思うようになります。旬のものを食べるように自然になっていった、子どもにもそれを言ったら分かってくれるようになった、そんな話を聞きます。

花鳥風月を愛でて暮らした私たちの祖先は、自然を征服するという遺伝子は持ち合わせていなかったことが分かる。これも、本当に、環境共生社会の原点だと思います。“自然を征服する”、これはヨーロッパの文化では当たり前です。日本はそうじゃありません。太平洋諸国もそうです。アジアもそうだと思います。

日本独自の農業・小規模の農業が生きる上で役立たなければならぬ。地産・地消の価値の再認識ですね。それぞれの地域、それぞれの国に、それぞれの幸せがある。幸福にグローバルスタンダードはない。

このスライドは、Biso A Miss という会社、第6次産業の会社を昨年立ち上げました。それを日経新聞で紹介してくれた記事です。Biso A Missは、「すみあそび」を逆から読んだものです。ビソアミス。「いなか暮らしトレーニングセンター」の全国展開を目指している。Biso A Miss (ビソアミス)は田舎暮らしを目指す若者を支援する会社です。里人と若者で限界集落の再生に挑戦しようというのですね。伝統的な生活術を再生しよう、この中に炭造りが入るのですね。健康なエコローライフは、自然治癒力です。クスリとか医者に頼らなくても、昔ながらのいろんな医療がある。こういうことをもつと見直していこう。これから20年、日本が果たしたい方向にいくのか、どうもそうではないかも知れない。とことんまで行くと日本人は絶対強いです。だけどそのプロセス

にある人間でも、あんまり世の中の動きに影響されずに何とか自分らでペースを決めているような生き方を見つけよう、これは自然との共生だと思います。その時間軸は旧暦になるのではないか。これで終わります。

講演後の質疑応答

参加者 A 面白い話で感激しました。旧暦に関してあまりにも知らないのでお聞きしたいことがいろいろありますが、地球の温暖化というのがありますね。温暖化で気象がずいぶん変わってきていると思うのです。そうすると、旧暦を意識してもそれを超えた異変があたりちでありますね。温暖化との関係ではどんな風にお考えなのでしょうか。

松村 27年前といまとがどれくらい違うかということ、そうも差がないのですが、つむじ風、あのような激しいのはなかったですね。気温も超高温があつたり。特に、よくご存じだと思いますが、熊谷と安芸太田町はいつも最高気温が出るところです。どういうわけか温度が高い。それで27年間の記録を見てみますと、たしかに温度は高くなっています。異常気象ですが、わたしの所で今年の12月3日に雪が35センチ積もった。12月の始めに雪が30センチも積もるなんて、わたしがそこに住んで20年になります。一回あつただけです。異常です。だけど、昨年本当に本格的な寒さが来たのは、12月22日くらい、旧暦でいう11月1日です。だいたいそういうふうになっている。ですから、いままでわた

しが体験した限りでは、地球温暖化といっても、これは、旧暦は2000年前に中国で一般化した暦で、604年から日本で使われている暦であるにもかかわらず、使えないわけではないことを示しています。

今日は話をしませんでした。が、渋川春海という人が1682年に貞享暦というのを作りました。それから約170年経っている天保暦になりました。天保暦が使われたのは、たった29年です。その後はグレゴリオ暦、太陽暦です。天保暦はどういう基準になっているのかというと、太陽の周りを地球が回りますが、その楕円軌道は偏心しているから、近日点と遠日点がある。すなわち、1月の2日あたりに一番太陽に近づく、そして7月6日くらいに一番遠ざかる。それを15度ずつ区切ったらどうなるか。遠くにあるときの15度は16.7日、近づいているときの15度は14.2日になります。ということは何が起ころるか。冬にほとんど閏が入らなくなつて夏に閏が集中する。貞享暦はそういう偏心をしていない。ほぼ均等に二十四節気が来るという形で暦が作られている。貞享暦はいまから200何年前まで使われていました。3000年ほどの歴史があるとしたら、2800年は貞享暦に近い農暦を世界は使っていた。天文学的に正確な天保暦になったからといって四季変化が正確になったとは言えないのでないかとわたしは思っています。少し難しい話になりましたが、結論から言えば、温暖化しているにもかかわらず、そんなに狂わずに使えているということですよ。

2033年問題というのがありますが、それは何かというと、閏が7月とも11月とも言える年です。天保暦でいったら、中気が入らない月

が2回出てくることになる。そんなことはいままでない。貞享暦ではそんなことは起ころない。そんなややこしい問題もあります。

旧暦はなぜ自然現象を反映しているのか

早川 旧暦が当たるとおっしゃったのは、理由はよく分かりませんが、そうかと思わざるを得ないのですが、またずいぶん便利だとは思いますが、お聞きしたいのは、普通の暦はもうずっと先まで何月何日と、まあいつてみれば自動的に暦ができるのですが、旧暦の暦も新暦と同じように自動的につくられるのか、それとも前年に影響されて、その年ごとに日付を考えて作つていかなければならないのか。もし、何年もずっと先まで旧暦の原則で暦ができるとすると、ずっと先の気象まで予測ができることになると思うので。

松村 28世紀の旧暦も作れます。月の満ち欠けが原則ですから。新月がいつか、一ヶ月が29.53日ですから、一ヶ月が29日になったり30日になったりしますが、いまの暦のように二四六九士(にしむくさむらい)小の月のように規則的ではない。ひと月の長さはばらばらです。毎年、だけど作れます。月の運行が分かっていますから。

早川 そうすると、5年先でも10年先でも天候が予測できるということになるのですか。

松村 そういうことです。それを繊維業界の方がやっておられるのです。少なくとも5年先の暦はほしいとおっしゃる。いまの話に関連して思い

だしたのですが、今度の震災で気仙沼が被害を受けました。そのある会社の社長さんとわたし知り合いなので、300人くらい社員がいらつしやいます。死者はなかった。その方は20数年旧暦カレンダーを使っておられるのですが、旧暦で記録している限り、サンマが三陸沖に下りてくるのは、ほとんどいつも差がない。旧暦のカレンダーで予測ができる。それは一切社員にすら言っていない。他の水産会社にもむろん言わない。長いおつきあいなので、わたし本を書くときに「XX会社が旧暦を使っているのを書いて良い？」と訊くと、「とんでもない、止めてくれ」と。それくらい旧暦は秘密情報なのです。実際に使えることを知った人は秘密にする。よく分からない人は2年か3年で買わなくなる(笑)。

だからいつまで経っても旧暦カレンダーは売れない。事実なのです。月の動きが動植物のバイオリズムに影響しているのではないかとということから始まったのではないかとわれている。4000年前に。中国では、8000年、もつと前から、太陽の一年が365.25日であることが分かっていた。

炭を作る

ちよつと追加になりますが、旧暦時代の燃料は何かということから、炭のことをやり出したと最初に申しました。それに関して資料をお配りいたしましたのでそれを見てください。

龍谷大学や京都女子大で環境教育を担当されている方が、わたしが旧暦の話をしにいったときに、演習林で放置されている木をなんとかならないものか、腐っていくままではもったいない、大きな木なら薪になるのだけれどと、相談を受けました。ドラム缶釜での炭造りを20年以上やっていますので、それで炭造りをやってみたらどうでしょうね、ニギニアではもう何年も前からやっていますよ、と話をしたら、演習林を持っていくところがやってみたいと始めました。

いま、広島のア芸太田町というところも、自然生態公園で展望台の木が育ち過ぎて風景が見えなくなつたので、それを産業廃棄物に持っていくと何十万もかかるので、それらの木を処分するのにちよつとずつでいいから炭になりますかねと言われて、それでは炭にしましょうと、実際にやり出した。

というのは、炭など作っても売れるのか、というのがいまの常識です。でも、売らなくてもいいのでないか、床下のある人は床下に炭を置いておけば非常事態のときの燃料になる。除湿効果もあるし、悪いことは何もない。足で踏んつけたら粉になるから、畑に蒔いて地質改善にも良いし、鶏の餌にちよつと混ぜれば糞の臭いが取れる。堆肥を作っておられる方だったら、そこに10%くらいばらとでいいから炭を混ぜれば、有効バクテリアがその炭の穴の中に住んで完熟するのに時間が半分で済む。「現代農業」にちゃんと書いてある。いまの炭なら金槌で叩かなければ粉になりませんからね。ドラム缶でやる炭は粉炭ができるんだよと。

なかなか分かってもらえてないのですが、そういうことを広めていくことも、わたしは大事なことでないかと思っています。小学生でもできますから。ドラム缶なんかはガソリンスタンドに行けばくれますよ。ホームセンターでも三千円で売っています。空気が入らないように密閉するのが大事なのです。

これは空き缶で作ったコンロです。これも環境教育を受けている学生さんに自分で作らせて、そうすれば壊れたら自分で直せますから。これを車のトランクに入れたいら非常時のとき、冬の雪に閉じ込められるとか、そういうときにも本当に役に立つ。炭がなくても木ぎれでも燃料になる。こういうのが本当に災害に役に立つ。こういうのこそ穏やかな人生を送るためのものなのです。家族でもいいし、その地域の誰かでもいい、こういうことをして欲しい。

これはニューギニアでの例です。これは2年前にうえた椰子の木ですが、非常に条件の悪いところ、水が少ないところです。一本にはその周りに粉炭を埋めた。そうしたら、育ち具合が2年で倍になった。村中の人がこれを見て、これは畑に使えると。サツマイモ畑にも椰子の殻で作った炭を播こうと。それこそ、こんな、ドラム缶埋めて、たまたまブロックがあつたので周りを囲んで囲いを作っているだけです。煙突は、学校など、大きな建物があれば縦樋があるのでそれを利用できる。椰子殻もある、クルミの殻もある、そこらじゅうに捨ててあるものをすべて炭にすることができると。ゴミ捨て場が殆ど空になります。

これも、たまたま蚊取り線香の大きい缶と小さい缶があつたので、下

から空気が入るようにしてコンロを作り、とうもろこしを焼いた。薪で焼いたのでは煤が付くのでおいしくないのですよ、炭ならそうではない。たつたこれだけの工夫なのにJICAもODAも誰もこういうことはしない。炭もよう作らん、コンロもよう作らん。ものが作られる人が行かなければ意味がないのですね。いまの田舎でお年寄りの方だったら誰でもできると思う。こういうことができず、ゲームばかりやる子どもにしてしまったのは誰なのか。社会が悪いの教育が悪いの。われわれの世代が教えていないのが悪いのです。わたしらは、小学校のころからおじいちゃんややってるのを見て習ったりしてやっていました。これはニューギニアで作った炭窯の写真です。ここにある木はジャングルに行ったらいくらでもある。ブッシュナイフで切るだけで板になる。それで囲んで海岸の砂でドラム缶を埋めて、学校の樋の壊れたのを使って、このドラム缶は8年間、道路を作るために空になったのが放っておかれていたのを持ってきたのです、それを子どもに持ってこさせて作ったのです。原発反対も良いが、自分たちで炭を作つてそれを燃料にして電気使用量が一割でも減らせるよとするほうがよほど前向きの運動だと思う。環境はきれいになる、里山はきれいになる。それを誰もやらない。ここで作つて欲しいといわれているので今度来て作ります。補助金がなければできない、そんなものではありません。子どものものを作ることをの大切さを教えることができます。旧暦から派生していったことです。

早川 時間が来ましたので、残念ですがここで終わりたいと思います。ありがとうございます。拍手でお礼申し上げます(拍

手)。

一・参加者 (15名)

上中憲治、小林宏子、下中義人、城口和男、田歌登、中塚一成、
中村賢一、橋田国夫、早川博信、早川恵子、早川真理子、
福本人司、山口孝志、渡辺淳、渡辺孝男

二・発言者 (1名)

A (70代、男性)、